

1 学校教育目標	
教育目標	・豊かな人間性や社会性を育成し、国際社会に生きていく資質や能力を養う。 2 自ら学び、自ら考える力を育てるとともに、社会の変化に主体的に対応できる力を育成する。 3 基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育を進める。 4 創意工夫を生かす特色ある学校づくりと開かれた学校づくりを目指す。
中・長期目標	・幅広く高い学力の養成 2 自律的・主体的行動力の育成 3 勉学・部活動の両立 4 進学校としてのキャリア教育の充実 5 開かれた学校づくりの推進

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
【学習指導】	生徒の学習時間確保や基礎学力向上のために様々な取り組みを行い、徐々に成果が上がっている。生徒の主体的な学習習慣については、生徒により差が大きく、更なる努力が必要である。
【生徒指導】	生徒同士による自治意識の醸成を最終目標にして、生徒会、各種委員会を中心に活性化を図ってきた。土台となる意識が少しずつ芽生えている。
【進路指導】	進路指導では、進路の年間計画に従って、模試・課外・「総合的な学習の時間」の内容を企画、実施し、3学年に関しては、国公立大学合格者は30名で、昨年度より減少した。「総合的な学習の時間」については内容を見直し充実させ、模試は結果の分析を深め授業等で生徒に還元し、生徒の進路実現を目指していく必要がある。
【開かれた学校づくり】	文化祭一般公開は約500人の参加者があった。保護者への情報発信も100回以上行った。地域への情報発信が課題である。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
【学習指導】	朝学や課題、課題考査など様々な取り組みにより家庭での学習時間を増やし、生徒の主体的な学習習慣をサポートする。また、授業評価や校内の公開授業の時期などを検討する。
【生徒指導】	主体的に学校生活を営むための「自治意識」を、いかに生徒同士の手で醸成していくかという目標を継続し、少しでも深化させたい。
【進路指導】	「総合的な学習の時間」は「第一志望届」など新たな内容を実施、検討しながら深めていく。模試や課外についてはさらにより効果的なものにしていく。
【開かれた学校づくり】	学校の情報を、地域に積極的に発信することにより、本校教育への理解と支援を働きかける。
<チャレンジ目標> 『ケータイの使用時間を管理し、家庭学習時間を増やす』	

4 自己評価				5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等 評価
教務	・生徒の基礎学力の定着	・成績不振科目を保持する生徒を一学期より把握し、教科・担任・学年と連携を図るとともに教務としても対応する。 ・補習等については各教科が実施できるよう体制を整える。	4 各学期末考査の欠点保有者数が全生徒の5%以内であった。 3 各学期末考査の欠点保有者数が全生徒の5~10%であった。 2 各学期末考査の欠点保有者数が全生徒の10~15%であった。 1 各学期末考査の欠点保有者数が全生徒の15%以上であった。	3	3年生については、成績不振者はおらず全員卒業予定である。1・2年生についても、教員間の連携を密にし、成績不振者に対する早めの対応を行い、効果が上がっている。学年末考査により全員進級できるような指導中である。本年度より通知票を電子化・各教科・科目別の平均点表示等、保護者に対する情報提供を進め、協力して学力向上を図った。	・家庭学習時間を増やしていき、引き続き生徒への働きかけをお願いしたい。 ・ケータイの使用時間よりも、家庭学習時間の方が少ない生徒は問題があると思われる。トップダウンではなく、保護者の協力や生徒の主体性を認めつつ、改善に向けて努力してほしい。 ・教職員の指導力の向上については、生徒による授業評価や公開授業等を実施し、引き続き取り組んでほしい。
	・教職員の指導力の向上	・生徒による授業評価を実施し、授業の工夫や改善を行う。 ・公開授業による研修を実施し、授業力の向上を図る。	4 年間2回以上実施し、授業の工夫改善に効果があった。 3 年間1回実施し、授業の工夫改善に一定の効果があった。 2 一部に実施できない教科、個人があった。 1 全教科実施しなかった。	4	今年度も生徒対象に授業アンケートを年2回実施し、生徒による授業評価を行った。各教科で情報を共有し、授業の工夫・改善につなげている。	
	・学力の向上や進路目標実現のため、進路ガイダンスの充実、また模試や課外の効果的な活用を図る。	・朝学の実施(週3回)や課題等を効果的に課すことにより、生徒の学習時間を増やし、基礎学力の充実および主体的な学習習慣の定着を図る。	4 朝学・課題の年間実施により、生徒の学習時間の増加・基礎学力の向上・生徒の主体的な取り組みに大変効果があった。 3 朝学・課題の年間実施により、生徒の学習時間の増加・基礎学力の向上に効果があったが、生徒の主体的な取り組みには至らなかった。 2 朝学・課題は年間を通して実施されたが、過半数の生徒で学習時間の確保、基礎学力の向上、生徒の主体的な取り組みには至らなかった。 1 朝学、課題は年間を通して実施されたが、多くの生徒で効果は見られなかった。	4	校舎改築による影響、生徒の状況に配慮しながら、朝学・課題等により学習時間の確保、基礎学力向上に取り組んだ。生徒の主体的な取り組みに配慮しながら、年間実施により効果を上げることができた。長期休業中の課題や学期始めの課題考査など学習時間の確保に効果があった。	
進路指導	・学力の向上や進路目標実現のため、進路ガイダンスの充実、また模試や課外の効果的な活用を図る。	・発展的学習内容を定着させるため、課外の効果的活用を図る。 ・全員受験の模試について結果分析会を各学年で行う。	4 学期中の課外の出席率が75%以上であった。 3 学期中の課外の出席率が65%以上であった。 2 学期中の課外の出席率が55%以上であった。 1 学期中の課外の出席率が45%以下であった。	4	1学期の課外の出席率は、2年生が80%、3年生が76%であるが、受講した生徒は2年生が67%、3年生が81%で3年生の方が高くなっている。2学期と3学期については、現在も課外実施中であるが、受講率は、1年生84%、2年生48%、3年生75%となっていて、2年生の受講率向上が課題である。	・進路実績が向上するよう、小野田高校キャリアプランニングを組織的、計画的に実行してほしい。 ・1年生のスタートが大卒なので、良いスタートが切れるような指導をお願いしたい。 ・2年生の中だるみ対策としての取組は評価できるので、更なる充実を目指してほしい。 ・3年生では、第一志望に合格できるようメンタル面も含めた指導をお願いしたい。 ・選ばれる高校の条件は、何といても進路実績である。国公立や難関私大などの合格数が増えてほしい。
	・進学校としてのキャリア教育を充実していく。	・「総合的な学習の時間」の活用により、自己にふさわしい在り方生き方や進路について考察する学習活動を展開する。	4 各学年ともほぼ計画通り実施した。 3 各学年とも80%程度計画通り実施した。 2 各学年とも80%程度計画通り実施した。 1 各学年とも40%程度しか計画通り実施できなかった。	3	9月に、ベネッセコーポレーションの担当者を迎えて、1年生と2年生の模試結果分析会を実施した。3学期に1年間を通して模試の分析会を実施し、今後の進路指導に生かす予定である。	
生徒指導	・生徒が自ら考え、仲間と協力して行動することにより、学校生活を活力あるものにするともに、生徒の自治意識を高める。	・「生徒会」や「各種委員会」を中心に、様々な手法で、学校生活の活性化を図り、自治意識の醸成に向けた啓発活動を行う。	4 「意識向上につながった」と思う生徒が80%以上であった。 3 「意識向上につながった」と思う生徒が60%以上であった。 2 「意識向上につながった」と思う生徒が40%以上であった。 1 「意識向上につながった」と思う生徒が40%以下であった。	3	本年度は生徒会・各種委員会が中心となって、諸問題を自分たちで考えその解決策を模索する自治活動に力を入れた。ケータイの問題は生徒総会で話し合い、「使用時間をコントロールする」という努力目標を採択した。また交通委員が通学路の危険箇所を標示して一人一人に配布するなど、積極的な行動が目立った。1月にアンケートを取ったところ、規範意識が上がったという生徒が73%であった。(変わらない27%、下がった0%)。近道ではないかもしれないが、今後この方法を継続していきたい。	・生徒指導だけではなく、教育相談や学年と連携した、未然防止の取組の成果は評価できる。引き続き、生徒の主体性を育てつつ、学習活動に専念できる環境を維持し、活力ある学校生活が送れるようにしてほしい。
	・教育相談体制を整備する。	・生徒が抱える問題を早期に見察するために、アンケートや情報交換会等を実施し、指導に活用する。	4 各学年年4回の情報交換会を実施し、指導に活用した。 3 各学年年3回の情報交換会を実施し、指導に活用した。 2 各学年年2回以下の情報交換会を実施し、指導に活用した。 1 各学年とも情報交換会が年1回以下に留まり、指導への十分な活用ができなかった。	4	いじめや悩みに関するアンケートを実施し、各学年での情報交換を密にして(年4回以上)共通認識をもった指導ができていく。特に教育相談・保護室の協力を得て、ケース会議が行われ、不登校の改善に至った。	

図書視聴覚	・外部団体との交流をより多く持ち、活動の活性化を図る。	・大学図書館、公立図書館等との交流を通じ、具体的な運営方法を学び、より活発な活動を生み出してゆく。	4 活動の充実度が80%以上 3 活動の充実度が昨年度の65%以上80%未満 2 活動の充実度が50%以上65%未満 1 活動の充実度が50%未満	4 ・山陽小野田市立中央図書館での本校図書委員選定の図書展示を行う。 ・山陽小野田市「デザイナーの会」における朗読ボランティア活動を昨年度より継続して行い、デザイナー図書が3作品完成した。 ・第61回NHK杯全国高校生放送コンテスト朗読部門出場。	・外部団体との交流や、各種コンクールへの参加については評価できる。引き続き、活動の充実に努めてほしい。 ・図書館の本来の目的である、生徒の図書の貸し出し数を評価の基準に取り入れたらどうか。	
	・蔵書・機材の管理保管を徹底する。	・蔵書の管理、機材の修繕管理をしっかりと行い、より良い環境を作っていく。	4 活動の充実度が80%以上 3 活動の充実度が昨年度の65%以上80%未満 2 活動の充実度が50%以上65%未満 1 活動の充実度が50%未満	3 ・図書原簿と現有図書とを照合して、不明図書を探った。 二学期はその処理を行った。 ・書架に図書のジャンル別名称を掲示した。	B	
	・各種コンクールへの参加及び指導の充実。	・各種コンクールへの積極的な参加とより上の賞を獲得できるように指導を強化する。	4 活動の充実度が80%以上 3 活動の充実度が昨年度の65%以上80%未満 2 活動の充実度が50%以上65%未満 1 活動の充実度が50%未満	4 ・例年通り「読書ノート」「読書感想文」「読書感想画」を出品した。例年以上の好成績を収めた。 ・「山口県読書フォーラム」(山口県教育委員会主催)の一環として「第2回ビブリオバトル(チーム戦)」を山陽小野田市立中央図書館で11月8日(土)に行った。 3月に第3回を行う予定。 ・「読書体験コンクール」へ出品した。 ・高文連全国大会予選に「書」を3名出品した。今後とも科学芸術関係のコンクールに積極的に応募したい。		
保健体育	・生徒自身が自ら健康管理を実践できるよう、意識高揚を図る。	・毎月生徒保健委員会を開き、健康管理対策の実践や啓発をおこなう。又「保健だより」を発行し、健康に関する情報を必要に応じて提示し、自らの健康意識を高めさせる。	4 毎月保健委員会開催、「保健だより」等発行し、大きな成果があった。 3 2ヶ月に1回程度、委員会開催、「保健だより」等発行し、一定の成果があった。 2 3ヶ月に1回程度の委員会開催、「保健だより」の発行した。 1 ほとんど委員会も開かず、形骸的な活動となった。	4 ・今年度の学校努力目標を受け、生徒の主体的な取組を促す仕掛けをおこなってきた。保健委員会も定例に限らず、時期的な疾病予防活動や衛生活動が必要な場合、その都度開催し生徒のアイデアを実践につなげた。その結果、校内衛生点検、保健だよりを含む健康管理の啓発活動等、生徒自身が率先して実践していく場面が多くなった。また、そのことで、「自分たちの健康は自分たちで」の意識も高まり、主体的に活動する喜びも味わわせることもできた。		A
	・環境整備(特に清掃)と設備等の安全管理の充実に努め、きれいで安全な環境づくりを推進する。	・毎月整備委員会を中心に、「清掃点検」と「安全点検」を実施し、1年を通してきれいで安全な環境づくりを目指す。	4 毎月「清掃点検」と「安全点検」を実施し、改善策を実行した。 3 2ヶ月に1回点検を実施し、改善策を実行した。 2 1学期に1回しか点検を実施することができなかった。 1 ほとんど点検を実施することがなかった。	4 ・環境整備向上のため、4月初めに掃除道具の改善・充実に努めたうえで、日々生じた問題点に対応してきた。途中、梅雨時期にプレハブトイレのカビ問題にも即時対応した。安全点検についても同様で、事務室とも連携しながら未然防止と問題点への対応を継続してきた。学校薬剤師による定期点検結果からも重要問題もなく、当初の目標は概ね達成されている。		
	・進路実現に向けた学習時間の定着と増加	・年間を通して家庭学習時間記録表を記入させ指導するとともに「学年だより」などで意欲の喚起に努める。 ・1学期定期考査前の放課後に自学自習の時間を設定する。 ・2学期に全員参加の1泊2日の学習合宿を実施する。	4 生徒の50%以上が、平日の家庭学習時間が2時間以上である。 3 生徒の40%以上が、平日の家庭学習時間が2時間以上である。 2 生徒の30%以上が、平日の家庭学習時間が2時間以上である。 1 生徒の20%以上が、平日の家庭学習時間が2時間以上である。	1 ・1月に行った学習時間調査では平日2時間以上であった生徒は23%であった。目標を大きく下回る結果となったが、45%の生徒が1時間半以上の学習をしており、一定の成果は上がったと考える。 ・「学年だより」は7回発行した。 ・夏の課外では3教科とも全員受講(理由のない欠席はほぼなかった)。 ・「学びの時間」は予定通り実施。「学習合宿」も全員が熱心に長時間学習に取り組んだ。また、模試の有効活用としてデジタルサービスに全員登録するなど、生徒の意欲喚起につながる刺激を与え続けている。	C	
二学年	・進路実現にむけた学力の定着と伸長	・進路課外の受講率を向上させ、学年全体として早期に受験体制を整えさせる。	4 年度内に進路課外を1講座以上受講した者が70%以上いた。 3 年度内に進路課外を1講座以上受講した者が60%以上いた。 2 年度内に進路課外を1講座以上受講した者が50%以上いた。 1 年度内に進路課外を1講座以上受講した者が40%未満だった。	4 年度内の進路課外の受講率は90%以上である。		A
	・朝学小テストを計画的に実施し、学力の定着を図る。また、毎週教科ごとの各クラス平均点と成績優秀者を掲示するとともに、成績不振者に対しては必要に応じて追試験や課題提出を行う。	・朝学小テストと生徒へのフィードバックを計画通り100%行った。 3 朝学小テストと生徒へのフィードバックを計画の90%以上行った。 2 朝学小テストと生徒へのフィードバックを計画の80%以上行った。 1 朝学小テストと生徒へのフィードバックを計画の80%未満しか行えなかった。	4 朝学小テストと生徒へのフィードバックを計画通り100%行った。 3 朝学小テストと生徒へのフィードバックを計画の90%以上行った。 2 朝学小テストと生徒へのフィードバックを計画の80%以上行った。 1 朝学小テストと生徒へのフィードバックを計画の80%未満しか行えなかった。	4 予定通り全ての朝学小テストを実施した。毎回の答案返却をはじめ、クラスごとの平均点を示すグラフと成績優秀者を掲載した結果表を毎週教室掲示した。		
	・「学習マラソン」(希望者による長時間学習会)を実施し、学習意欲の高い生徒にはその目的に見合う学習会を行う。 ・2学期後半に「第一志望届」を提出させ、進路目標の早期設定を図る。	4 10月・1月のいずれかの模試において、3教科総合偏差値が50以上の生徒が35%以上である。 3 10月・1月のいずれかの模試において、3教科総合偏差値が50以上の生徒が30%以上である。 2 10月・1月のいずれかの模試において、3教科総合偏差値が50以上の生徒が25%以上である。 1 10月・1月のいずれかの模試において、3教科総合偏差値が50以上の生徒が25%未満である。	3 11月記述模試で3教科総合偏差値が50以上の生徒は33%だった。(1月模試の結果は1月30日現在未発表) 第一志望届の作成により、進路目標の早期設定が図られた。			
三学年	・受験体制の確立	・1学期当初からの進路課外受講率を高水準で維持し、学年全体の進路実現意識を高める。 ・2年次に行った長時間学習(ライジングセミナー)のような学習会を行い、集団としての意欲向上を図る。	4 進路課外受講率が、75%以上であった。 3 進路課外受講率が、70%以上であった。 2 進路課外受講率が、65%以上であった。 1 進路課外受講率が、60%未満であった。	4 1学期、2学期、夏季休業課外を通して、学年全体の約80%近い生徒が受講した。	B	
	・受験に向けた学力の伸長	・各担任、副担任、進路指導部との連携を取りながら、必要に応じて担任以外の面談(進路相談)も積極的に取り入れる。 ・チーム「おのだ」として受験に臨めるような土壌づくり…一緒に頑張ることと他への配慮を喚起する ・4年制大学、短期大学、専門学校、公務員、一般就職など多様な進路に対応する面接指導や小論文(文章)指導を行っていく。	4 国公立大学合格者が、40名以上であった。 3 国公立大学合格者が、30名以上であった。 2 国公立大学合格者が、20名以上であった。 1 国公立大学合格者が、20名未満であった。	3 8月上旬に「自覚自習」と銘打って、長時間学習を2日間開催した。しかし、数学など個別の講座には、50名程度の参加があったが、2日間通して学校で学習したものは少数であった。センター試験前後には、個別の教科で学習会が実施された(国語や数学)。		
	・開かれた学校づくり ・信頼される学校づくりのため、家庭や地域との連携協力体制を充実させる	・学校情報「東西南北」を活用し、諸行事の情報を発信する。 ・学校ホームページの内容について一層の充実に努め、随時更新により積極的に情報発信を行う。	4 10回以上情報提供した。 3 9回以上 " 2 8回以上 " 1 7回以下しかできなかった。	2 ・学校情報「東西南北」で、文化祭、家庭クラブの活動、130周年記念資料展、敬老の日訪問、保育実習、マラソン大会、ボランティア活動等の8回、情報提供を行った。来年度は更に情報発信に努めていきたい。		B
・業務改善 ・校舎の移設に伴い発生する諸問題の解決に努める	・運営委員会や職員会議において諸問題を聞く機会を設ける。	4 年間36回以上情報発信できた。(月平均3回程度) 3 "24回以上 " ("2回程度) 2 "12回以上 " ("1回程度) 1 "12回未満しか情報発信できなかった。	4 ・学校のホームページで、月平均3回以上の情報発信を行った。来年度は、行事担当の部から、掲示する部への流れを早くなるよう努めていきたい。			
・業務改善 ・校舎の移設に伴い発生する諸問題の解決に努める	・運営委員会や職員会議において諸問題を聞く機会を設ける。	4 諸問題を70%以上改善した。 3 "60%以上改善した。 2 "50%以上改善した。 1 "50%未満しか改善できなかった。	4 ・14項目の要望や問題が出されたが、全てにおいて対応できた。教職員昇降口の鍵ボックスの問題、2年生校舎に教員の中継場所の確保とその場に校内電話の設置、渡り廊下の滑り止め、仮設校舎トイレの湿気問題など事務室と連携できた。来年度も、更に業務改善に努めていきたい。			

<p>6 学校評価総括(取組の成果と課題)</p> <p>(学習指導)授業アンケート、公開授業等を通して授業改善の取り組みを進めることができた。欠点保有者に対して通知票の工夫や教科・学年で指導のあり方についての連携を図ることができた。二学期末現在、欠点保有者数が各クラスにいるが自覚を持って取り組ませている。</p> <p>(進路指導)本年度の課外は、出席率と受領率が高い数字となった。模試は、分析の結果を生徒へ還元していくことが大切であるが、今年度、1学年ではインターネットを使ったサービスの研究・活用を始めている。「総合的な学習の時間」には新しい内容を取り入れて実施した。</p> <p>(生徒指導)生徒が主体的に行動することを目指してきた。生徒会、各種委員会が生活における問題を主体的にとらえ、改善を図った。課題としては、全体に浸透するには時間がかかることである。</p> <p>(教育相談)SG・養護教諭・担任・部顧問・保護者と連携をとり、個々のケースに対応した。心理テストや学校生活アンケートを実施し、生徒の理解を深めるとともに、1、2年生にはエンカウンターやアサーショントレーニングで人間関係作りを実施した。しかし、悩みを抱える生徒は多く、個々に対応するのは難しい。</p> <p>(健康管理)生徒保健委員会の活性化を図ったことにより、生徒自身が自ら健康管理を実践しようとする意識高揚に確実につなげることができ、将来構想の基盤もできつつあるとみてよい。来年度は、今年度の取組を更に深化させ、実効性をより高めていきたい。</p> <p>(環境整美・安全点検)今年度、概ね目標は達成できた。校舎建て替え工事も続くので、引き続き、きれいで安全な学校づくりの推進に徹していきたい。</p> <p>(図書)ビブリオバトルや各種コンクールへの参加等を通じて外部との接触を積極的取ったことは、今までになく刺激のあるものであった。市立図書館との連携は、図書室の運営に多様性を生み出していった。</p> <p>(開かれた学校づくり)情報発信については、学校ホームページについては、月平均3回以上という目標を達成したが、学校情報「東西南北」による情報発信は10回以上を目標としたが、7回と達成できなかった。</p>
--

<p>7 次年度への改善策</p> <p>(学習指導)3年間を見通した学習指導のあり方、教育課程等を学校全体で協議していくことが望ましい。成績不振者の減少に向け、早めに各教科・学年と協議し、補習・課題のあり方について指導計画を検討する。小野田高校の特色を大切に、学習指導と特別活動のバランスをしっかりと取っていく必要がある。特に中学校から1年次への学習指導について更に取組む必要がある。小野田高校を中学生や保護者にどうアピールするかは重要な課題であり、公開授業だけでなく、学校見学会・学校説明会等においても、学習指導の改善に取り組んでいる姿勢を紹介していく。</p> <p>(進路指導)課外の受講率や出席率については、引き続き生徒の意識を高め、向上を目指したい。模試については、1学年で始まったインターネットを使った指導を次の学年でも継続できるように学年・教科と連携していく必要がある。「総合的な学習の時間」の新しい内容も実施結果を見ながら改善していきたい。</p> <p>(生徒指導)引き続き、生徒が主体となって行動するよう導きたい。ただし、生徒に任せきりにするのではなく、方向、方法に対して適宜、指導助言を行う必要がある。</p> <p>(教育相談)生徒が悩みを相談できるよう、LHRでの内容を検討し直し、担任が生徒と面談できる時間を確保したい。</p> <p>(健康管理)まだ、模索の段階になるが、1つ1つの取組を検証しながら実効性のある保健衛生指導の体系化を図っていく。</p> <p>(環境整美・安全点検)今年度の取組を継続しながら、現状を維持していく。</p> <p>(図書)今年行ったことを冷静に捉え、より充実したものとしていきたい。高教研や大学等の図書館との連携を強化して、多くの情報を入手して、いっそう充実した図書館活動を展開していきたい。</p> <p>(開かれた学校づくり)来年度は、学校ホームページの作成から、揭示までの流れを再構築し、できるだけタイムリーな情報発信に努めていきたい。また、平成28年度から、全県一区となる中、学校情報「東西南北」により、マスコミへの情報提供を更に進め、中学生やその保護者への広報に努めたい。</p>
